

Ⅱ 早生広葉樹等の育苗及び植栽技術に係る実証試験

(実施期間：平成29年度～令和3年度 予算区分：県単 担当：池本省吾)

1 目的

近年、植栽から15～30年程度で収穫できる「早生樹」は、里山・耕作放棄地の有効利用に繋がる可能性がある。そこで、早生樹を利用した短伐期林業の技術開発及び育林技術の体系化を図る。

2 実施概要

(1) 方法

早生樹を植栽する際の基礎資料とするため、センダン（R2年度・県内1カ所）、コウヨウザン（R元年度・県内3カ所）植栽試験地（写真）について、植栽木の成長等を調査した。

(2) 結果

①センダン

植栽してから2成長期経過後の樹高の平均は、センダン約208cm>クヌギ約119cmで、クヌギに比べてセンダンの方が約1.7倍大きかった。地際径の平均は、センダン約36mm>クヌギ約20mmで、クヌギに比べてセンダンの方が約1.8倍大きかった（図1）。

②コウヨウザン

植栽してから3成長期経過後の生存率は91.6～99.4%で、活着に関して大きな問題はなかった。植栽木の成長はおおむね良好で、樹高も根元径も植栽時の5倍以上に成長していた（図2）。

今後は、これらの植栽事例をとりまとめ県内林業事業体等への普及を図る予定である。



写真 センダン植栽試験地（クヌギと混植）

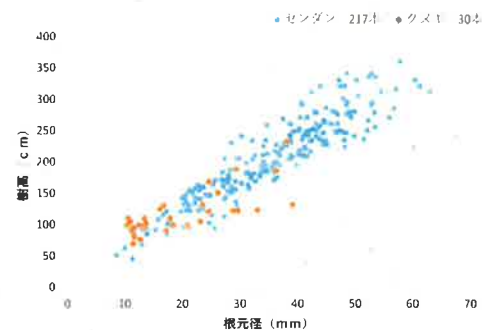


図1 センダンとクヌギの成長比較

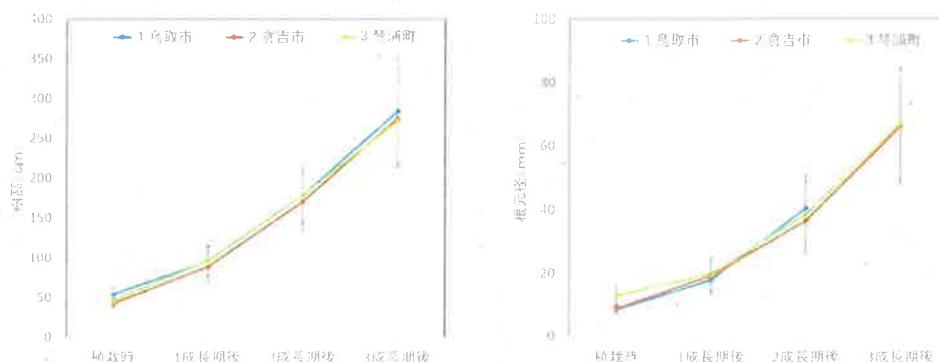


図2 コウヨウザン植栽試験地における植栽木の成長推移